

研究代表者 所属・職：工学部・准教授

氏 名：坂口大史

研究課題名：東南アジアの高齢者施設におけるインテリア調査と内装木質化による施設環境の向上

## 研究の概要

本研究は、東南アジア諸国において特に高齢化の著しいタイにおける高齢者福祉施設利用者のニーズや空間調査、タイの施設との比較に基づき、福祉施設における居住環境の向上のため、施設の環境改善に関する具体的な方策を示すことを目的とした研究である。

現在の高齢者施設の多くは、最低限の設えや人工材料を中心とした内装仕上げなど、室内環境が充実しているとはいえ、特に共用空間では、利用者が多くの時間を過ごす活動の中心的な場所であるため、室内環境整備の効果は大きいといえる。また、室内環境向上の手法として、「温かみ」や「リラックス効果」に加えて、調湿作用や防菌効果など心理・情緒・健康面での様々な効果をもつ木材を活用することは有効であるといえる。今年度の調査では本研究の基礎的な調査と位置づけ、以下に取り組んだ。

1. タイ・チェンマイ県における高齢者支援および地域福祉の運営モデルの把握
2. ユニバーサルデザイン（Universal Design: UD）の概念を地域医療・福祉サービスと統合する可能性の調査
3. 大学、地方自治体、市民社会組織を連携させた「モデルセンター（Demonstration Hub）」開発の実現可能性の分析

## 達成状況・成果内容

以下に研究の達成状況と成果内容をまとめる。

### 研究の達成状況

全体として、「フェーズ1：現状把握とネットワーク構築」はほぼ完了しており、次段階である社会実装に向けた具体的な検討フェーズに入っている。

### 目的1：運営モデルの把握

チェンマイ県における地域医療・福祉の現場（マヒドン・ハジャサク病院、UDセンター、高齢者ケア施設等）を多角的に視察した。タイ独自のボランティア制度（村保健ボランティア：VHV）や家族中心のケアモデルの全容把握に至った。

### 目的2：UD概念の統合調査

建築・インフラとしてのユニバーサルデザイン（UD）に留まらず、医療サービスや生活支援と如何に紐づけるべきかについて、現地の専門家（チェンマイ大学建築学部等）との意見交換を通じ、解決すべき課題を特定した。

### 目的3：モデルセンター開発の分析

「Demonstration Hub」の候補地となり得る場所の選定や、協力パートナー（大学、地方自治体、民間組織）間の役割分担について、一定の合意形成が進んだ。

#### 1. 主な成果内容

今回の調査で得られた主要な成果は、以下の3点に集約される。

##### ① タイ型コミュニティ・ケアに関する知見の獲得

VHV（村保健ボランティア）の有効性：行政の手が届かない高齢者の日常的な健康管理を、地域住民が自律的に支える仕組みを確認した。これは将来のモデルセンター運営における核となる要素である。  
病院と地域の連携：病院内にUD相談窓口や展示スペースを設置するなど、医療現場と生活環境改善が物理的に近接している成功事例を収集した。

##### ② 多セクター間の協力体制の確立

チェンマイ大学（建築・看護）との連携強化：技術支援やエビデンス構築のパートナーとして、より強固な関係を築いた。地方自治体（PAO/SAO）の関与：予算措置や政策的な位置づけについて、市長クラスとの直接対話により前向きな感触を得た。

##### ③ 「Demonstration Hub」の具体化に向けた要件定義

単なる製品展示場ではなく、「多機能型コミュニティ拠点」（介護相談、UD体験、多世代交流、デジタルヘルス活用等）としての機能を備えるべきであるという明確な方向性が定まった。